

平成30年度 第1回横浜市学校保健審議会会議録

日時	平成31年3月1日（金） 午後6時30分から8時30分まで					
開催場所	関内駅前第一ビル302会議室					
出席委員名	物部 博文	鈴木 裕子	大久保 辰雄	大木 昭子		
欠席委員名	河野 伸二郎	海上 良太				
開催形態	【審議事項】 ・学校保健に関する事務・事業のあり方について・・・公開（傍聴者 なし）					
議題	【審議事項】 ・学校保健に関する事務・事業のあり方について					
決定事項	1 会議録の確認者は大木委員に決定する。 2 審議会の答申を決定する。					
	1 会議録確認者の指名 横浜市学校保健審議会運営要領第6条第2項に基づき、会議録の確認者は大木委員に決定する。 2 【審議事項】 （事務局） 学校保健に関する事務・事業のあり方について意見をいただくため、【資料1】学校保健事業の概要に沿って、現状の学校保健について説明を行った。 ○現代的な話題について ・学校保健の概要について説明があったが、先日、日本学校保健会の事業報告会に出席した際に、取り扱われていた現代的な話題が入っていないので、いくつか盛り込めないかという意味で紹介したい。 ・AEDと心肺蘇生教育について、各学校にAEDの設置までは上手くいっているが、小学校で心肺蘇生法の教育までやった方が良くはないかと言われている。実際に、小学校で11%ほど実施しているが、やったほうが良いと言う意見は半数超えている。水泳の授業やマラソンの時にAEDの取扱いを分かっている人がいて、助かるケースもある。そういうのも、盛り込めないといけない。 ・精神衛生関連についてである。精神的に不調のあるお子さんで、上手く医療に繋がらず、そのまま不登校になる子も多い。横浜市の医師会の学校医部会でも、精神科が入り、取組を進めている。 ・保健教育の推進、今でいうと喫煙防止教育などについても、がん教育や薬物乱用防止の上にある問題で、独立したテーマとしてあった方が良い。 ・メディアリテラシーについて。今の子供は、スマートフォンを特によく使う世代。私は、比較的賛成。ああいうのは、使っていないとできないから。ただ、日医の発表などでは、メディアリテラシーに関しては、目が悪くなることや、脳の発育の遅れの影響などを考慮し、否定的である。ただ、現代的な話題なので、話題としてあっていいと思う。 ○メディアリテラシーについて ・メディアリテラシーについては、国としてICT等を進めていて、その中での負の影響、例えば、寝る前に使うことによって、睡眠への影響、斜視等の問題も指摘されている。国が進める部分と保健のほうで引き取る必要があるものに分かれてくるのではないかと。 ・ある区の小学校で、一か月のうち何日間をノーメディアデーというものを作っている先生がいて、スマホもテレビもその期間は禁止。それが結構お母さんたちとお話をする時間や考える時間になりちょっと作っただけでも変わった。おそらく、そのように使い方とか小学生にも中学生にもなんでダメなのか伝える。薬物乱用もそうですが、昔の薬物乱用は怖いとかからだをダメにするとか脅し文句が多かった。今は、脅しではなく、これを使うとこうなるからダメだよ。と理論的にやってくると小学校とか中学校の生徒も分かってくれて、メディアについても、こういう風になるからダメだよと実際のことを教えてあげた方がいいと思う。					

<p>議事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアリテラシーは、今の時勢では、性教育と同じ問題で、ずっとつきあっていかななくてはならないもので、禁止にしても、入ってきてしまうもの。デジタルタトゥーの問題なども含め、小さいころからの教育の場が必要であると思う。 <p>○横浜市における保健教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際には、既に学校で行われているものがあるが、見えにくいというか、学習指導要領の中にあって教科学習の中でやっているものがあったりする。横浜市は、ずっと昔から熱心で、全国的にみると、横浜市は保健教育を積極的に行っているというデータがある。ただ、どこまでやっているかが外から見えにくい。出来ているところと出来ていないところをはっきりさせる。既にやっているところをやるのか、やっていないところをやるのか、そこははっきりさせないと議論をしづらい。 ・保健体育の授業に関しては、小学校体育研究会の保健のほうではレベルの高いことをやっている。養護の先生も積極的にかかわっている。 <p>○AEDと心肺蘇生教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AEDを小学校でも指導を実施できるかというような検討は良いかもしれないですね。実際に、小学校でAEDの指導を実施している市もあるので、そういった情報を集めて、横浜市では、出来るのか出来ないのかその辺の可能性の検討をするのはどうなのか。 ・いざその現場に居合わせると、訓練を受けていてもなかなか使用できないことも多い。また、使用しても本当にしてよかったのかすごく後から後悔する人が多い。もし、小学生がAEDを使って、助かればいいけど万が一亡くなった場合、小学生や中学生の心に残るものがあるのではないか。 ・児童生徒が心肺蘇生をやったあとの心のケアについて、実際には、救えないほうがトラウマになる。AEDの実態としては、8割救命で、後遺症を残すのが2割で、ほぼ支障はないと、まずそうアナウンスがされるべき。PTSD等を生じてトラウマになることは、蘇生に関わらずいろんな現場でもあるわけで、それは精神的な話題になってくる。 <p>○精神衛生関連について</p> <p>精神科を受診した方がいい子どもがたくさんいる。入院した方がいいという子もいるが、その精神医療センターが空いていない。または、受診するのに半年以上かかる。小児の精神科医はいない。普段見てくれる精神科の医者に電話すると、ちょっと小児はと断られる。その段階で、必要なカウンセリングを受けた子が繋げられるような病院とか、見てくれる地域のお医者さんがいると、もっと引きこもりとかひどくならない状態になるのかなと思う。</p> <p>○間接喫煙について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊谷市では、子供達の尿中のコニチンを測定している。親が喫煙していた子たちは、数値が少し上がる。親の喫煙をやめさせるという話が10年前だったら、そんなことまで制限するのかという話であったが、今であれば、子どもを守るために必要だと伝えたら、それなりに理解されるのではないかなと思う。 ・薬物乱用防止教室でも、学校から喫煙も入れてくださいという依頼が多い。その時に、歯科医師会の資料で受動喫煙の害についての資料を出すと、その後、一か月間禁煙外来がものすごく混む。 ・子供たちが、保護者や兄弟に波及的な影響を及ぼすことはあると思う。ただ、学校教育側からすると子供たちの健康や安全から考えていきたいなと個人的には思っています。ただ、結果として、そういうところに繋がるのは良いかと思えます。 <p>○今後の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の意見を事務局で、整理していただいて、次回につなげる。 ・欠席の委員もいますので、事後に意見を聞いていただき、出席されている委員の皆様も気づいたらメールでご意見をいただければ。 ・二回目は今年の秋口までには開催の予定。 ・委員の中で優先度が高い又は課題と思うところを絞りながら、行っていく。
<p>資料</p>	<p>(資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市学校保健審議会諮問 ・【資料1】学校保健事業の概要 <p>(参考資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法規集
<p>特記事項</p>	